

林辺正子 HAYASHIBE Masako 1940–2004

東京都世田谷区に生まれる。東京外国語大学(ドイツ語学科)卒業後、ストックホルム大学大学院で宗教史を学ぶ。しかし滞在中に進路を変え、織物の道に進むことにする。とくにアバカノヴィッチの作品に感銘を受け、美術作品としての織物を目差す。帰国後は世田谷で工房を構え、日本クラフトデザイン協会展に出品するが、しだいに個展を舞台にして、用途をもたない立体作品を発表していった。とくに、1990年代半ば以降は、壁や建築物に依存しないでそれだけで自立する作品が主となっていった。そうした作品の特徴は、内側が空洞だということにある。これは、織物の役割は表面(界面)の形成にあるという作者の考えを表していた。(HT)